

研究主題

主体的に学習する子どもを育てる 複式学級の授業改善に関する研究

— 間接指導を充実させる映像資料集作成を目指して —

【研究担当者】 伊 東 晃
【この研究に対する問い合わせ先】
TEL 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562
E-mail kyouka-r@center.iwate-ed.jp

Ⅲ 複式学習指導映像資料集の構成

全ての授業映像は、「全体通し映像」「学年通し映像」「部分視聴映像」に、編集してあります。

複式学習指導映像資料集1 国語編	1年 みいつけた 2年 どうぶつ園のじゅうい	1年 直接指導
複式学習指導映像資料集2 算数編	5年 大造じいさんとガン 6年 やまなし	6年 直接指導
トップページ	授業単元名	キャプチャ画像
	1年 どちらがおおい 2年 水のかさのたんい	2年 直接指導
	5年 単位量あたりの大きさ 6年 速さ	同時導入

Ⅳ 終わりに

複式学習指導映像資料集を視聴した先生方から、以下のようなご意見をいただきました。

視点1 指導過程の組合せの工夫

共通導入・終末を、実際にどのように進めるとよいのか分かりやすい資料です。

視点2 教師のわたりの工夫

これまででは、どちらの学年も気になり、すぐにわたってしまうことがありました。映像資料から、わたりのタイミングを明確にする大切さが伝わります。

視点3 間接指導時の学習の充実

間接指導の学習活動が、子どもにとって無理なく主体的に取り組めるものになっていて、子どもの思考が途切れず続いている様子を視聴できます。

視点4 リーダー学習の充実

学習リーダーがどう指示を出し、フォロワーとどのように学習活動を進めているかを、映像資料を視聴して知ることができます。

この研究の研究報告書と概要版は岩手県立総合教育センターのHPに掲載しております。複式学習指導映像資料集（DVD）は、岩手県内の複式学級を有する小学校へ配布しておりますが、さらに資料集が必要な場合は、岩手県立総合教育センター教科領域教育担当までお問い合わせください。

I はじめに

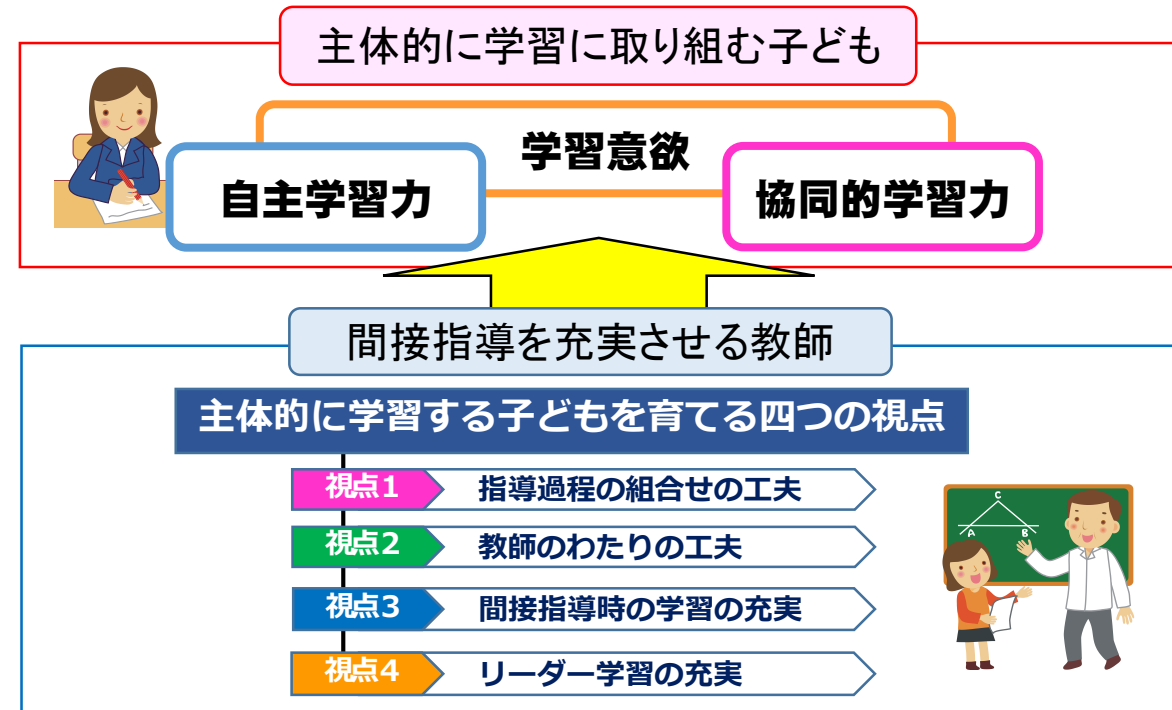
この研究では、複式学習指導の進め方を視覚的に理解できる映像資料集を作成しました。この映像資料集は、間接指導時でも子どもたちが主体的に学習を進めることができるよう、教師の指導のポイントを四つの視点で示したものです。

この映像資料集を視聴し、複式学習指導について理解を深めることによって、複式学級の授業改善につながるものと考えました。



Ⅱ 主体的に学習に取り組む子どもと四つの視点

この研究では、子どもたちが主体的に学習に取り組むためには、「学習意欲」「自主学習力」「協同的学習力」を育成する必要があるととらえました。そして、これらの力を子どもたちに身に付けさせるためには、学習指導にあたる教師が、下に示した四つの視点で授業を構想していくことが大切であると考えました。



複式学習指導映像資料集は、これら四つの視点をもとに編集・作成しました。詳しい内容につきましては、次のページの「映像資料で見る四つの視点」をお読みください。

視点1 指導過程の組合せの工夫

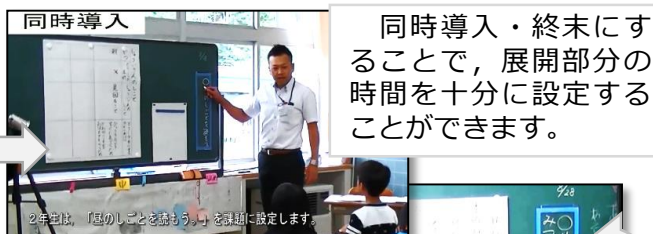
基本となる指導過程の組合せとそのよさを理解することができます。

視点2 教師のわたりの工夫

子どもの学習状況を見取ってからわたることや、意図的にわたるよさを理解することができます。

展開ずらし指導過程

学年学習過程	指導形態	学年学習過程
1 つかむ (1) 問題把握 (2) 課題設定	直接	1 つかむ (1) 問題把握 (2) 課題設定
2 みんなで (1) 集団解決	直接	2 自分で (1) 自力解決 (2) ペア解決
3 自分で (1) 自力解決 (2) ペア解決	間接	3 みんなで (1) 集団解決
4 まとめる (1) 学習のまとめ (2) 適用問題	直接	4 まとめる (1) 学習のまとめ (2) 適用問題



展開部分を二分割し、ずらして組み合わせることによって、直接指導したい内容に時間をかけて指導したり、自力解決にじっくりと取り組ませたりすることができます。

展開ずらし指導過程

類似した内容の学習指導を行う場合や、異内容の学習でも子どもたちが十分に複式での学習の進め方を理解している場合には、展開ずらし指導過程を取り入れることができる。問題把握や課題設定をほぼ同時に行い、展開段階において自力解決と集団解決をずらすことにより、直接指導と間接指導の時間を明確に分ける指導過程である。(研究報告書p.5)

教師のわたりの工夫

- ① 間接指導の際、個人またはグループで主体的な学習の仕方を身に付けさせていくこと。
- ② 間接指導に入るとき、児童が何をどのように進めていけばよいのか明確に把握していること。
- ③ 先に直接指導に入る学年は、児童の実態に応じ、見通しをもてない可能性が高いと思われる一方の学年から入るべきである。したがって両学年が同じような力量をもっているならば、下学年から直接指導に入る方が望ましい。(研究報告書p.6)

1年 直接指導



間接指導時の学習の進め方を提示し、見通しをもたせ、**学習意欲**を引き出します。

わたり



拡大教材文に貼らせた付箋の位置や内容から、間接指導時の学習状況や**自主学習力**を評価しておきます。

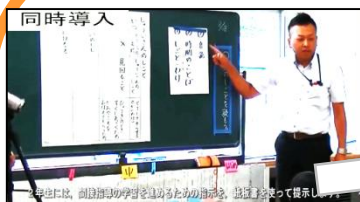
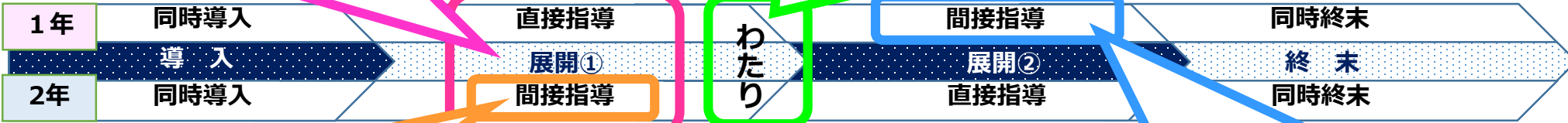
2年 直接指導



見取った間接指導時の学習状況を生かして、直接指導を充実させます。

1・2年国語「みいつけた／どうぶつ園のじゅうい」

- 視点1 展開ずらし指導過程
- 視点2 学習状況を生かしたわたり
- 視点3 意図を明確にした間接指導
- 視点4 学習リーダーの育成の工夫



学習リーダー育成のために、教師が間接指導時の学習の進め方を提示しておきます。

学習リーダーは指示を通して学習活動の見通しをもち、**自主学習力**が身に付いてきます。



フォロワーも、学習リーダーの役割を支えながら、**協同的学習力**が身に付いてきます。

直接指導での学習を整理させるため、カードに書く活動を設定することによって、**自主学習力**が育ちます。



困った時の相談方法を明確にしておくことで、**協同的学習力**が高まります。

間接指導終盤に、一人一人の学習状況を評価することによって、**学習意欲**を高めます。



【表5】 四段学習指導過程と学習リーダーの役割 (『学習指導方法の工夫・改善』より)

段階	学習指導過程	□学習リーダーの役割・△児童全員の役割
課題把握	ア 前時の学習の想起 イ 課題把握 ウ 課題解決の見通し	△前時の学習課題と学習事項等が各自ノートを見たり、教室内の掲示物等を見たりして発表できるようにする。
解決努力	ア 一人学習 イ グループ学習	□学習リーダーが「一人学習」の時間を設定する。 △全員が課題に取り組み、教科書やノートに記入する。 □学習リーダーが「一人学習」の停止と「グループ学習」の開始の指示をし、時間設定をする。 △グループのリーダーを中心に課題について全員が発表する。
定着段階	ア 全体学習 イ 課題解決 ウ 解決方法のまとめ	□学習リーダーが「グループ学習」停止を指示し、全体での学習に切り換える。 △各グループから課題についての考えを発表させる。

学習リーダーの役割

学習リーダーによる授業を効果的に行うには、子どもたちに**学習の主体者**であるという自覚をもたせることが大切である。(研究報告書p.8)

学習リーダーの育成の仕方や、小グループでの学習活動を充実させることのよさを理解することができます。

本時では

間接指導を充実させる直接指導

- ・主体的に学習に取り組むことができるよう、「何のために」「何を」「どのように」すればよいが明確にする。
- ・困った時に友だちに相談できる環境を整えておいたり、後で教師が必ず評価する時間を設ける等の工夫をしたりすることが必要である。
- ・教師が見取れないそれまでの活動を的確に把握することが必要。(研究報告書p.6)

視点3 間接指導時の学習の充実

間接指導に適した学習活動を設定することや、直接指導と関連した学習活動を設定することのよさを理解することができます。

視点4 リーダー学習の充実